



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。☎秘書政策課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 市長就任から2年の報告

この5月で市長就任から早や2年、任期4年の中間点を迎えました。この間、時代の潮流を先読み、「市民の暮らしを一つひとつ良くしていくことが政治の原点」と考え、市役所改革・人材育成・財政の健全化・広域行政の推進など、市政の舵取りに邁進してまいりました。

市役所改革では、担当制を導入して責任を明確化し、市民の皆さまの要望にスピード感をもって対応できるようにしました。特に、次代を担う子どもに関する所管を一元化し、子育てコンシェルジュを置いた「こども未来部」や、陸上自衛隊から危機管理監しやうべいを招聘し、防災力の強化を図った「危機管理部」の創設など、市民ニーズと現場主義に徹した改革を進めてきました。また、創造性豊かで柔軟な発想と行動ができる職員を育てるため、人材育成にも力を入れています。



子育てコンシェルジュ

財政の健全化に向けた取り組みでは、この2年間で基金残高(貯金)を15億円余増やし、起債残高(借金)を5億円余減らしました。これは、本当に必要な事業へ計画的に予算を投入する財政運営に転換した成果です。今後は、新島田市民病院の建設や老朽化が進む小中学校の建て替え、さらには、島田金谷IC周辺の土地利用や金谷中学校跡地の開発など、市の発展のために積極投資するプロジェクトの実現に向け、中長期的な視点で持続可能な都市経営を目指していきます。

一方、少子高齢化に伴う人口減少がもたらす影響で、地域社会の状況は大きく変容しようとしています。「国立社会保障・人口問題研究所」がまとめた島田市の人口推計では、2040年には現在の10万人から7万8,000人にまで減少するとされています。さらに深刻なことは、65歳以上の高齢者が増え、下支えする生産年齢人口(15歳から64歳まで)が減少すること。近い将来、医療・介護・福祉などの社会保障費の増大と同時に、税金が減少する中で高度成長期に集中的に建設した公共施設や道路などの長寿命化対策が必要とされてきます。

今すぐ出生率が上がっても、あと30年は人口減少に歯止めが掛からないといわれる日本で、島田市が将来も豊かで住みよ



まち・ひと・しごと創生市民会議

いまちであり続けるには、就労の場の確保、安心して子どもを産み育てられる環境づくりなど、今後5年間の取り組みが大変重要になります。そのため、先月「島田市 まち・ひと・しごと創生市民会議」を立ち上げ、より具体的な「島田市地方創生総合戦略」策定に向けた第一歩を踏み出しました。

当市の経営資源を活かし、人を育て、官民の連携を図りながら、魅力あるまちの創造(活性化)に全力で取り組んでまいりますので、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などを紹介します。

新金谷駅で、地元観光と金谷茶振興のため、SL乗客の皆さんに新茶の呈茶サービスと一煎茶パックの配布を行いました。呈茶の際は、日本一の大茶園である「牧之原台地」のことや、深い香りといった金谷茶の特徴とともに、緑茶の成分が健康面から大変注目されていることなどをPRしました。

新金谷駅での活動は今回が初めてでしたが、ほとんどの人が新茶のサービスを喜んでくれました。特に、愛知県

から来たご家族連れに「やっぱり静岡のお茶はおいしいね」という感想をいただいたことがとても印象に残りました。

今回お会いした皆さんが、車窓から見た茶畑の景色を話題に、差し上げた新茶を味わってくれたら、私たちはとても幸せです。
かわむらあひこ
(河村愛子：かなや茶娘大使)

